学校番号	3016

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説日本史Ｂ（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

①2 年生で学習した世界史の知識を踏まえ、日本と世界各地の政治・経済・社会・文化の共通点・相違点を比較して考察し、歴史的思考力を養ってほしい。
②日本史の重要史料の解読を通じて、日本史に対する認識や知識を深めよう。

2　学習の到達目標

日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	①レポート提出 ②授業観察 （授業への積極的参加、発問への回答等）	①定期考査 （前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計５回実施） ②レポート提出 （ワークシート、長期休暇宿題レポート等）	①定期考査 （前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計５回実施） ②授業観察 （授業内での積極的な史料活用、発問への回答等）	①定期考査 （前期第一中間考査・前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計５回実施） ②授業観察 （授業への積極的参加、発問への回答等）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	1章 日本文化のあけぼの	①更新世において日本はどのような状況であったかを見ていく。 ②弥生文化が大陸から伝播し、水稲農業が開始されることを理解する。 ③古墳の発達に注目しながら大王の政治的成長の様相を把握する。	○				a：旧石器文化，縄文文化，弥生文化及び古墳文化の時代の社会に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。	前期第一中間考査、前期第二中間考査、前期末考査の計3回の考査。
	2章 律令国家の形成	①推古朝の政治を内政、外交の両面から理解する。 ②天武・持統朝において、中央集権国家が実現したことを理解する。 ③平城京造営・辺境政策・遣唐使派遣を理解する。 ④律令再編策がどのように行われたか理解する。		○	○		b：古代国家の推移から課題を見いだし，東アジア世界との関係などと関連付けて多面的・多角的に考察している。 c：古代国家の展開と飛鳥・白鳳・天平文化などの特色に関する文献，絵画などの諸資料を活用することを通して，歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，考察した過程や結果を適切に表現している。	
	3章 貴族政治と国風文化	①藤原北家の進出から摂関政治にいたる過程について考え、その権力の基盤について理解する。 ②文化の国風化とその特質について理解する。 ③寄進地系荘園の成立過程を把握する。			○	○	c：国風文化の展開及び中世社会の萌芽に関する文献，絵画などの諸資料を活用することを通して，歴史的事象を追究する方法を身に付けようとしている。 d：摂関政治などについての基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。	授業観察。

	4章 中世社会の成立 5章 武家社会の成長	①後三条天皇の政治と、院政の仕組を把握し、平氏政権の性格も検討する。 ②鎌倉幕府の政治機構を把握し、その特質を理解する。 ③北条執権政治の下での幕府諸政治機構の整備とその特質を理解する。 ④蒙古襲来について、我国の防衛体制にふれながら理解し、得宗の専制と御家人の窮乏によって生じた幕府政治の動揺を認識する。 ①建武の新政と南北朝の動乱の契機を理解する。 ②室町幕府の政治・外交の変遷について考察すると共に、室町文化の特質を理解する。 ③伝統的諸権威の没落を応仁の乱・下剋上の学習を通して理解する。 ④戦国大名の領国支配について学ぶ。	○	○		○	a：武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 d：中世社会の多様な展開及び武家・公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向についての基本的な事項を東アジア世界との交流と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。 b：産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかのかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見いだし，日本の諸地域の動向，日明貿易など東アジア世界との交流，庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。	レポート提出。
後期	6章 幕藩体制の確立	①織豊政権による統一政策とその意義について学ぶ。 ②幕藩体制の特質を理解する。 ③「鎖国」の実態とその歴史的意義についても理解する。	○				a：織豊政権，幕藩体制の特質に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 c：幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成に関する文献，絵画，地図，統計・グラフなどの諸資料を活用することを通して，歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	後期中間考査、学年末考査の計２回の考査。
	7章 幕藩体制の展開	①幕藩体制が安定した時代の幕府政治について学ぶ。 ②経済機構、交通・技術の発展、都市の繁栄について学ぶ。			○			
	8章 幕藩体制の動揺	①幕藩体制の動揺の要因と、幕政改革の動向と特色について学ぶ。 ②幕藩体制の衰退や「鎖国」体制の動揺の様子を理解する。						

9章 近代国家の成立	①開国から江戸幕府の滅亡に至る過程を国際環境と関連させて考察・理解する。 ②明治政府が、欧米列強と対等の地位を獲得するために諸制度の改革を推進して、近代化を図った経緯を理解する。 ③専制政治を強める明治政府に対抗して自由民権運動が高揚したこと、政府が憲法や議会制度を整備する経緯を考察・理解する。 ④産業革命を通じて日本の近代産業・資本主義が確立したこと、様々な問題が発生したことを理解する。 ⑤明治時代、伝統文化の上に欧米文化を取り入れた近代文化が成立したことを具体例について考え、理解する。		○		○	b：我が国の対外政策の推移と近代産業の成立から課題を見いだし，条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行と関連付けて多面的･多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 d：明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程や我が国の対外政策の推移と近代産業の成立についての基本的な事柄を条約改正や日清･日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	授業観察。
10章 二つの世界大戦とアジア	①第一次世界大戦が日本にどのような影響を与え、日本がどのように対応したかを考察する。 ②この時期に、政党政治・デモクラシーの風潮が高揚したことを、具体例を考え、理解する。 ③大正時代、大衆文化が発展したことを理解する。 ④大戦後の恐慌、関東大震災、金融恐慌、世界恐慌などの経済の動向、国際関係の変化、軍部の台頭による政治状況の変化について考察する。 ⑤満州事変から太平洋戦争に至る経過、戦争が日本国民のほか諸国の人々に多大な損害を与えたことを理解する。	○			○	a：政党政治の推移と大衆文化の形成や二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 d：日本の立場と国際関係などを関連付けて、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての基本的な事柄理解し，その知識を身に付けている。	レポート提出。
11章 占領下の日本	終戦後の占領下の民主化政策、サンフランシスコ平和条約の締結と独立などの日本の戦後復興の経過を理解する。					b：我が国の国際貢献の拡大などと関連付けて，日本の課題及び役割を認識するとともに社会の変化を踏まえ公正	

	成長の時代 12章 高度	国際社会への復帰、経済復興と高度経済成長について現代の事象と関連付けながら、考察する。				○	に判断している。 d: 占領政策と諸改革，平和条約と独立などの基本的事柄を当時の国際関係の推移と関連付けて総合的に理解し，その知識を身に付けている。	
	する世界と日本 13章 激動	冷戦終結・平成不況など、世界の動向と関連づけてこれからの日本のあり方を考える。		○				

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。